



目次	頁
図書館利用の勧め	1
私の図書館活用術	3
図書館活用のすすめ	4
デジタル散歩道 (喫茶去)	5
図書館探索のためのツール紹介 NDL-OPACなど	7
医学部分館長交替	10
「図書自動貸出返却装置」 の設置について	10
簡易型目録図書館検索システムについて	11
平成 16 年度附属図書館学術講演会	11
附属図書館委員会	12
図書館日誌	12
<a href="http://www.lib.ehime-u.ac.jp/">http://www.lib.ehime-u.ac.jp/</a>	

## 図 書 館 利 用 の 勧 め

橋 燦 郎

近年、電子媒体での情報伝達の発達は目覚ましいものがある。インターネットの端末があれば、世界中どこにいても必要な情報を入手できる時代である。このような高度情報社会になっても、学生や教職員にとっては、学習勉強や研究活動のための情報が得られる図書館の存在は大きい。情報通信の未発達時代でも図書館には、一般書や雑誌以外に、専門書、一般には入手し難い研究報告書や学会の講演要旨集など必要な情報が揃っていた。今では研究室にしながら、図書館にある情報を入手することも可能になっているが、その全てがインターネットを通して得られる訳ではない。本や文献などの中には直接見て確かめないといけないものもあるので、図書館に足を運ぶことになる。渡辺昇一氏の「続知的生活の方法」(講談社現代新書)の中にも著者自身が行った図書館の利用法が書かれている。図書館は学生や教職員にとって情報の集積地であり、これから自らが必要とする情報をど

のように得るかであろう。図書館を上手に利用すれば、学習や研究活動の更なる能率アップも図れるのではないかと考えられる。

### 1. 教育図書の充実

図書館が所蔵している蔵書の中には、一般コレクションとしての、本、雑誌やジャーナルなどの定期・逐次刊行物、さらにはマイクロフィルムや視聴覚資料などの非印刷物の他に、特殊コレクションとして、官公庁出版物、貴重本や郷土資料などがある。図書館は、蔵書が多ければ多いほど良いというような性格のものでもないが、利用者側にとっては良い本をたくさん蔵書していることが必須である。例えば、学生が学習勉強用に利用する蔵書も、選書することが大切である。学生が学習勉強するにあたって、一冊の本を調べただけで全て事足りる訳ではないので、幾つかの本を読み調べることになる。そうすることにより、一つの現象でも多面的に学べるので、内容を

より良く理解できるようになる。講義の中で分からない処があれば、担当教員に尋ねることも大切であるが、自ら図書館に足を運び勉強する姿勢も必要であろう。そうすれば、自分の知識も自然と豊かになる。本を読み勉強していれば、もっと多くのことを知りたいと思うようになる。そうなれば、学習勉強も楽しみになってくる。

学生の教育は、大学の使命の一つであると思う。入学した学生を教育して、社会に役立つ有為な人間として世に送り出すことは大学の役目の一つであると思う。そのためには、学生が利用する図書（本や資料など）の充実や学生の教育に必要な図書（教科書以外の参考図書など）の充実、整備も必要であろう。また、本の内容も時間の経過とともに新しい事実が付け加えられるので、新しい図書も必要である。その際には、教職員のみならず学生からも選定希望図書の意見を聞くことも必要なことであろう。

また、国際交流も年々活発になっているので、外国からの留学生も今後も増えるものと予想される。彼らが大学で勉強や研究活動をする際に必要な図書の充実は大切と考えられる。時々、大学内で勉学に必要な本を探す苦労話も聞く。現在では英語が世界標準語化しているが、折角日本で勉強しているのであるから、留学生には日本文化は日本語で学んでほしいと思う。

図書館の蔵書が増え続けると、一方で、それに対応した効率的な整理、保管体制の整備も必要となろう。いずれにしても、教育用図書の充実が必要なことと考えられる。

## 2. 電子ジャーナル及び検索システム

研究活動を行うにも蔵書（定期・逐次刊行物など）は必要である。最近、かなりな数のジャーナルが電子ジャーナル化され、文献依頼をして1週間程待たなくても、必要な時にプリントアウトして読めるようになってきた。しかし、図書館の電子ジャーナルには世界で発行されているジャーナルのかなりなものはカバーしているものの、まだ未記載の電子ジャーナルも多い。これらもカバーできる電子ジャーナルの導入も必要と考えられる。一昔前までは投稿論文は手書きかタイプライターで作成していたが、現在ではパソコンで

作成した論文を電子メールで投稿する時代になった。審査もメールを通じて行われるようになりつつあり、審査時間も大幅に短縮されるようになってきた。それにより、今後益々多くの研究活動情報が得られるようになる。それに伴って、研究活動を行う際の文献調査が重要なことになってくる。折角行った研究が既に発表されていたという悲劇に見舞われないためにも、簡便な文献検索システムは必要と考えられる。しかしその一方で、電子ジャーナルの充実も重要である。これらを車の両輪に例えるなら、両者がそろって始めて車は勢いよく進むことができるのである。そのためにも、電子ジャーナルの充実とともに、簡便な文献検索システムの導入が必要である。

## 3. 図書館の利用

本は貴重な財産である。本を読み勉強すれば、様々な知識を身につけることができるだけでなく、自分の財産にもなる。若い人にはもっと図書館を利用して勉強してもらいたい。図書館の利用法が分からなければ、図書館の人がアドバイスしてくれるし、必要な本の探し方が分からなければ指導もしてくれる。とにかく、図書館にある蔵書は自分のものと思い大いに利用すること、これらを有効に活用して、自分流の学習勉強方法を身につけることも若い時期には必要なことではないかと思う。

私事で恐縮であるが、約15年前にカナダの大学に留学したことがある。その大学には、キャンパス内に6つの図書館（学生用図書館、学部の図書館、研究用文献や雑誌を集めた図書館、マイクロフィルムや官公庁のパンフレットなどが閲覧できる図書館等）があった。それらの中には本や文献が検索できる端末が置かれていた。勿論、大学内の建物にも学生用、教職員用の端末があり、そこからもアクセスできるようになっていた。開館時間や本の貸出、返却業務は、愛媛大学のそれと殆ど変わりはないが、試験期間のみ24時間開館していた。それらの図書館の中には、コピー機、スナックや飲み物の自販機が置かれていて、図書館の外に出なくても一日その中で勉強できるようになっていた。図書館に入ると、愛媛大学の図書館でも感じるのだが、一種独特の緊張感が漂っていた。しかし、地

下には、スナックや飲み物の自販機も置かれて、学生がのんびりと談話できる空間も用意されていた。その大学の学生は、学期中は下宿と大学の図書館と講義室を往復している感じであった。学生に聞いてみると、図書館で調べて勉強しなければ、講義についていけない、レポートを書くのに本や文献を調べなければ書けない、参考書を買う余裕がない等の返事が返ってきた。

#### 4. 終わりに

図書館には学生が集まってくるので、これを利用して図書館の有効利用を図ることも考

えられよう。図書館という場の利用が促進されれば、学生、教職員にとっても使用頻度が増えるものと考えられる。また、学生が勉強で疲れた時にくつろげる空間があっても良いのではないかと思う。情報社会になり、世の中が狭くなったように感じるが、教育や研究を活発に行うためにも、今後図書館の役割はさらに大きくなるものと考えられる。図書館利用の促進と一層の充実が求められてくるのではないのかと考えている。

(たちばな さんろう 農学部分館長)

## 私の図書館活用術

大政 太

図書館を利用したことがない学生はあまりいないだろう。図書の貸出し、テスト勉強等、一度はお世話になったことがあるだろう。しかし、図書館マスターと呼ばれるほど図書館のサービスを余すことなく利用している学生は少ないのではないだろうか。今回は図書館マスターとまではいかないが、私の五年間の大学+大学院生活で培った図書館活用の経験から得た「これを知っていれば得をする」という一歩進んだ活用術を紹介しようと思う。

### 1. 卒論作成には図書館HPを利用すべし

図書館HP内には電子ジャーナルをはじめ、雑誌、論文検索のコンテンツが充実していて簡単に自分の研究テーマに関する雑誌記事や論文を検索することができる。この方法を知っていれば卒論の資料集めがかなり楽になる(本当に!!)。愛媛大学以外の図書館の資料も検索に含まれているので、欲しい資料が愛媛大学以外に所蔵されている場合は1Fにある「レファレンスデスク」の窓口で手続きをすれば取り寄せが可能である(詳しくは窓口の職員さんにお尋ねください。きっとやさしく教えてくださるでしょう)。使う上での注意点はHP内でのサービスの大半は学内のパソコンからしか利用できないことである。

### 2. 蔵書検索について

① 「OPAC」という言葉を御存知だろうか。これは、オンライン利用者目録(Online Public Access Catalog)を略した言葉で、要するにパソコンで蔵書を検索できるシステムのことである。蔵書検索について職員の方に質問すると、学生が知っていることを前提にして「OPACで探してみた？」などと言われることが多いので最低限「OPAC」という言葉の意味は知っておこう。

② OPACを使った蔵書検索で、所蔵一欄に先生の名前がある図書は「いい図書」といえる。このような図書は先生が自分の研究費で購入した図書(公費で購入しているので一応図書館所蔵となる)なので、いわばその分野の専門家(先生)のお墨付きを受けた図書なのである。ただ問題なのはその先生の研究室へ行き、直接貸し出しの交渉をしなければいけないことである。私の経験ではほとんどの先生は快く貸してくれた。

③ 学術雑誌等の多くは書庫に所蔵されている(OPACで検索すると所蔵は、図・本館と表示される)。書庫へ入るには窓口で簡単な手続きをすればよい。書庫は図書館の中でもかなり異質な空間である。例えるなら「本の迷宮」。学生の間には一度は体験することをお奨めする。

(おおまさ ふとし 法文学研究科総合法政策専攻院生)

## 図書館活用のすすめ

赤星 智子

愛媛大学には、図書館(城北、樽味、重信キャンパス)が3つ存在しています。図書館には、様々な分野の本があり、部屋に本のジャンルの配置図を点在させて探しやすい状態にしています。もし、タイトルをヒントに本を探す場合は、自分が赴いて本を一つ一つ手にとって探せます。また、タイトルまたは、著者名などのキーワードが分かっているならば、図書館内に設置しているOPACで検索する事が可能です。本が探せたら、館内には閲覧しやすいように清潔な机が配置されているので、じっくり読書できます。閲覧室には、本を読む以外にレポート作成やテスト勉強などで勉強している学生も多くおり、一貫して彼らは周りの人に迷惑をかけないように静かに使っています。館内では、飲食、喫煙は堅く禁止されていますが、気分が疲れたら毎日取り替えられた新聞や、館が定期購読で購入している雑誌を読めたり、ビデオやDVDなどの鑑賞が可能です。図書館は、開館の日程や時間が決まっておりそれらを確認するには、愛媛大学の図書館HPで確認する事が出来ます。そのHP内の電子ジャーナルには、学術論文が検索でき、専門課程に上がった学部生や院生、教授などもよく利用してい

ます。ネット上で無料で閲覧できない場合は、文献依頼を出せば数日のうちに手に入れることが出来ます。

図書は、一人につき5冊貸し出し可能で、貸し出し期間は3週間です。利用者は、個々の使いやすさを追及するためにも、この貸し出し期間を忠実に守る義務を持ちます。長期休み期間がかぶる場合は、3週間以上貸し出し可能です。また、開館時間に返却が出来ない場合は、入り口にある返却ボックスに本を入れておける便利な点があります。

図書館には、その他にも様々な利用法がありますが、もし不明点があれば係員の人が何らかの解決策を丁寧に示してくれます。図書館の事、利用者の事を常に考えられているので日々使いやすい図書館になっています。また、季節毎に飾っている小物や花が変わっているのも、変化している点を探してみるのも図書館の楽しい利用法の一つでもあります。

(あかぼし さとこ 農学研究科生物資源学・応用生命コース専攻院生)

### 使ってみて下さい

**KOD (研究社 Online Dictionary)** <http://kod.kenkyusha.co.jp/service/>

**学内限定。** 定評ある研究社の英和・和英12辞典を横断検索できます。図書館ホームページの学術情報DB検索やリンク集からリンクしています。

**青空文庫** <http://www.aozora.gr.jp/>

青空文庫は、インターネット電子図書館です。作者の死後50年を経て著作権の消滅した作品と、著作権者が許可したものの、2種類がおさめられており、無料で読むことができます。図書館ホームページのリンク集からもリンクしています。



## シリーズ 電子図書館紹介 ① ～デジタル散歩道（喫茶去）～

<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/Denshi/index.html>

附属図書館では、平成12年度に、電子図書館構想の取組みとしてデジタルコンテンツ研究会を発足させ、貴重資料等を電子化するとともに、解説や翻刻、関連記事などのコンテンツ化を図り、学内だけでなく広く国内外研究者に対する学術研究資料として、また、地域住民への生涯学習、学校教育への教材提供として情報発信を行ってきております。

図書館ホームページ電子図書館コーナーで順次、公開していますが、その見どころ、訪ねどころを紹介いたします。お気軽にデジタル散歩をしていただければ幸いです。

「喫茶去」(きささこ)とは禅語で「よく来られた、まあお茶でもどうぞ」という意味です。お茶を飲んだら帰れという意味ではありませんので誤解なきようお願いいたします。

### 「句碑めぐり」

#### 一巡りあう人と歴史と文学一



【句碑めぐりトップページ】

### 「はじめに」

この企画は、平成7年8月に附属図書館がホームページを公開したことにより、何か特色のある情報をWeb上に提供できないかを目的として企画されたものです。

恥ずかしいことですが、松山に、このように多数、句碑や文学碑があることなど当時は予想もしないことでした。『俳句の里松山』(松山市役所発行)の寄贈を受けて、まずは大学近郊から、デジカメ持参で、昼休みや日曜日に出かけました。寺社、公園、学校など様々なところに設置された句碑は、木々の陰や、生い茂った草に埋もれて見つけにくいこともあり、発見した時の喜びは、その苦労に比例するものでした。その内、形のよい石など見つけると、何か字が彫ってないかと裏側にまわってみたり、まさに「石の裏にも?年」状態に陥りました。当初はそれほどたくさんの句碑を紹介する予定ではなかったのですが、地元新聞に取り上げられ、さらに、TVにまで出演する羽目!になり、「これからもどんどん紹介していきたいです。」などと宣言したた

めに、もう後戻りすることもできなくなり、気がつけば、松山市はおろか、川内(現東温市)、北条(現松山市)まで足を運ぶことになり、その数は、200基を越え、関連する俳句、短歌など約400を紹介するまでになりました。

Webの面白さは、次々と関連するサイトや項目へとリンクすることにより、現在から昔に自由にタイムトラベルすることが可能となることです。あれも紹介したい、これも掲載したいと、Web意欲?をそそられ、気がつけば、句碑、人物、場所、などをインターネットという赤い糸で結びつけていました。

学外の方から、『「秋山兄弟」の銅像は梅津寺のどのあたりか?』また、香川の高校生から、『修学旅行で松山に行くので参考にさせて欲しい』など、思わぬ問い合わせに、とまどったり喜んだり、いつのまにか、一つ一つの句碑が我が子のように愛しく思えてきました。

「句碑めぐり」Web版は、今と昔、人とその思いをつなぎ、俳句はまさに、「ハイテク(インターネット)」と「てくてく足(実際に現地に足を運ぶ)」を駆使した、無尽蔵の心のデータベースにまで、成長してきました。



【句碑マップ】

### 「子規」春秋

「春や昔十五万石の城下かな」  
「松山や秋より高き天守閣」

この春と秋の二つの句はまさに正岡子規の代表作であり、俳都「松山」をこれほど象徴的に詠んでいる句はないと思います。子規は、わずか35年の短い生涯に「俳句革新」という生命を燃焼させました。故郷「松山」を慕い、また誇りに思う彼の心情を偲んでください。



【春の句】



【秋の句】

### 「山頭火」

「おちついて死ねそうな草枯れる」  
「もりもりあがる雲へあゆむ」

自然と一体になり、自己にいつわらず、自由に一筋の道を詠いつづけた種田山頭火は混迷する時代に、何を見ようとしていたのか？彼は言う。「所詮私の道は私の愚をつらぬくより外にありえない。」彼の終焉の地「一草庵」は、愛媛大学のすぐ近くに、今も大切に保存されています。



【一草庵】



### 「一茶」

「寝ころんで蝶泊らせる外湯哉」  
「正風の三尊みたり梅の宿」

小林一茶が二度も松山に来遊したことをご存知ですか？今から210年も前のことです。

なんとその訪ねた相手は近世伊予第一の俳人、栗田樗堂です。彼の住んだ庵は、「庚申庵」とよばれ、平成15年から庚申庵史跡庭園としてNPO法人が管理運営しています。

18世紀末の古い庵が、変化する都市のまん中にあるのは驚きです。



【道後公園】

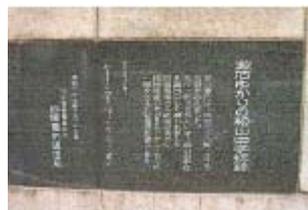


【庚申庵】

### 「夏目漱石」

「わかる、や 一鳥啼て 雲に入る」

「坊っちゃん」なくして松山は語れません。明治28年松山中学に英語教師として赴任した漱石はわずか1年で、熊本第五高等学校に転勤して行きます。しかし、滞在した松山時代や子規と過ごした「愚陀仏庵」での約50日間は、彼の文人としての方向を決定していくことになります。



【松山中学跡】

### 「子規山脈」

子規の弟子、高浜虚子と河東碧梧桐、文友であり子規顕彰にその生涯を捧げた柳原極堂、子規の寄宿舍の監督であった内藤鳴雪、句友、村上霽月など子規を慕い、子規のまわりに集った人々は「子規山脈」と言われております。その山々にこだまする先人の言の葉に、心を開き耳を傾けて、刻まれた碑を訪ねてみてください。

“松山や 時空にひらく 句碑の里”

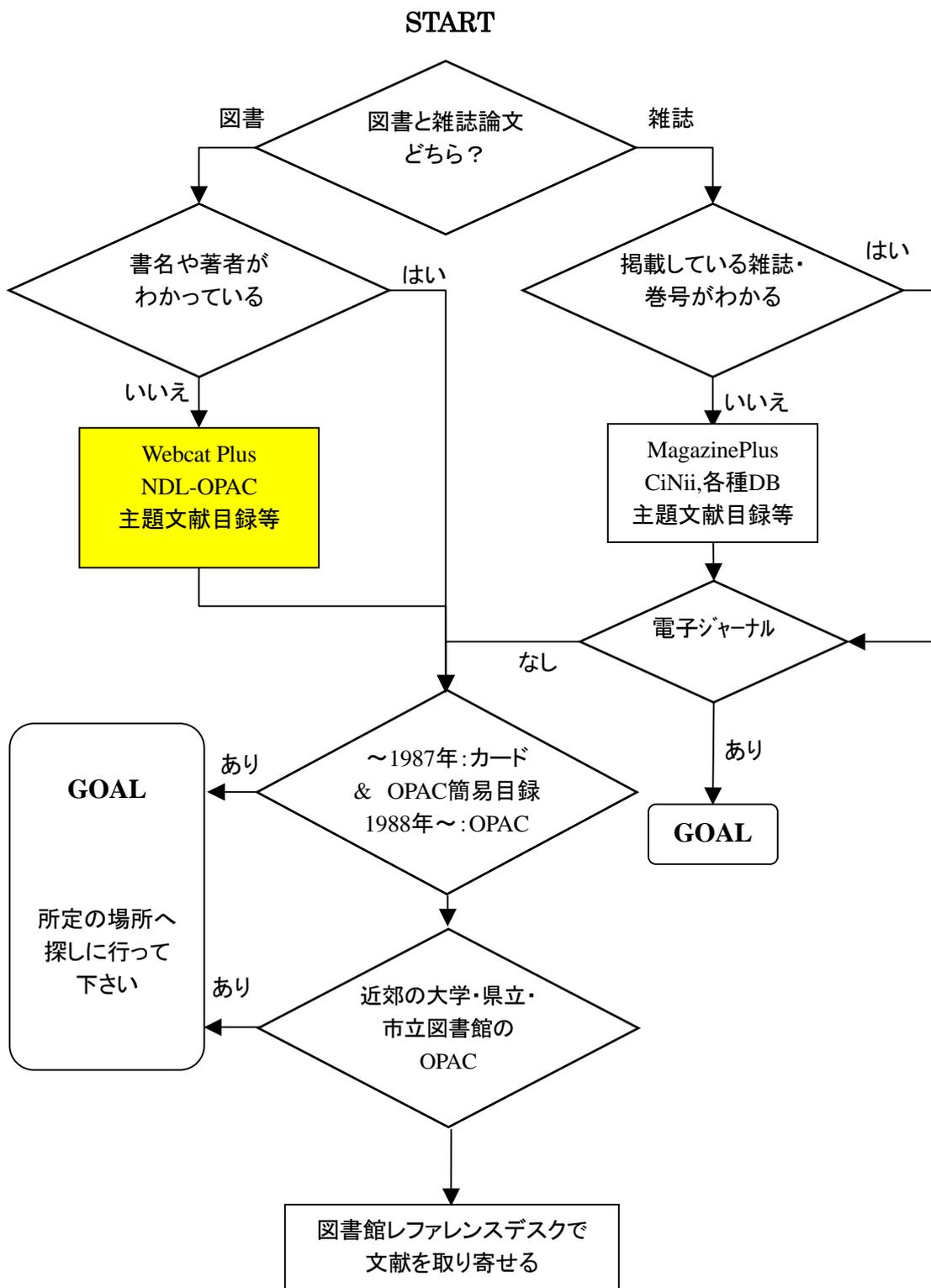
(松本秀毅 学術情報課専門役)

## 図書館情報リテラシーシリーズ (第1回)

### 図書探索のためのツール紹介～NDL-OPACなど

「文献入手方法フローチャート」に従い文献を入手してください。今回は、図書を探査するツール（道具）で基本の一つであるNDL-OPAC（国会図書館オンライン目録）を紹介します。

文献入手方法フローチャート



NDL-OPAC (国立国会図書館オンライン目録) 【<http://opac.ndl.go.jp/index.html>】

- 国内発行図書検索のための基本的ツール
- 200件までの結果を表示

NDL-OPAC は、国立国会図書館が所蔵する資料を検索するオンライン目録です。国立国会図書館へは、国内において発行された出版物の納入が義務づけられています。従って国内発行の図書を探するための基本的な検索ツール（道具）になります。明治期からの図書が検索できます。検索結果の表示は、200件までとなっています。

検索できる資料種別・点数は、下記の表のとおりです。

(NDL-OPAC「利用の手引き」1. 検索できる資料から)

資料群名	内容	件数 (2004/09/24現在)	更新
<a href="#">和図書</a>	日本語の図書, 非図書 (他の資料群に含まれない楽譜, 録音資料, マイクロ資料, 静止画資料, 点字資料等), 科研費報告書	約 306 万件	週次
<a href="#">洋図書</a>	外国語の図書, 国際機関資料, 欧文児童書, 洋非図書, 米国 GPO マイクロ資料	約 90 万件	週次
<a href="#">和雑誌新聞</a>	日本語の雑誌・新聞, その他継続して刊行されるもの	約 12 万件	週次
<a href="#">洋雑誌新聞</a>	外国語 (中国語・朝鮮語を除く) の雑誌・新聞, その他継続して刊行されるもの	約 5 万件	週次
<a href="#">電子資料</a>	CD-ROM, DVD-ROM 等	約 1 万件	週次
<a href="#">和古書・漢籍</a>	和漢の古典資料	約 4 万件	週次
<a href="#">博士論文</a>	国内博士論文, 海外博士論文	約 31 万件	月次
<a href="#">地図</a>	明治以降の国内外の一枚ものの地図・住宅地図	約 4 万件	週次
<a href="#">音楽録音・映像</a>	音楽録音資料 (CD, レコード等), 映像資料 (ビデオ, DVD 等)	約 2 万件	週次
<a href="#">蘆原コレクション</a>	バレエ, シャンソン, サーカス等の研究者として知られる故蘆原英了氏が収集されたコレクション	約 6 万件	月次
<a href="#">著者名</a>	和図書の著者・編者名のみ取り出したもの	約 72 万件	週次
<a href="#">件名</a>	その本のテーマを表す言葉	約 15 万件	週次
<a href="#">NDC</a>	日本十進分類法 (NDC)	—	—

- あるテーマに関する図書を探す。

「タイトル」、「件名」の項へ探すテーマ（検索語，キーワード）を入力し，検索ボタンをクリックします。

（「書誌拡張検索」画面）【<http://opac.ndl.go.jp/Process>】

和図書 □ 洋図書 □ 和雑誌新聞 □ 洋雑誌新聞 □ 電子資料 □ 和古書・漢籍 □ 博士論文 □ 地図 □ 音楽録音・映像 □ 蘆原コレクション

詳細設定 所蔵館 全館 入力消去 検索

タイトル 細分 AND 説明

著者・編者 細分 AND 説明

出版地 AND 説明

出版者 AND 説明

出版年 年以降 年まで AND 説明

件名 細分 AND 説明

分類記号 追加 AND 説明

標準番号 追加 AND 説明

書誌番号 追加 AND 説明

請求記号 細分 AND 説明

各種コード AND 説明

本文の言語 追加 リストから選択 AND 説明

詳細設定 入力消去 検索

項目間を AND条件で結び

タイトル順 の 正順 に 和図書 を先にして 20件 ずつ表示。

- 特定の著作を探す。  
書名が分かっている → 「タイトル」の項へ探している書名を入力してください。  
著者名が分かっている → 「著者・編者」の項へ探している著者名を入力してください。
- 探す図書の「書名」・「著者名等」が分かれば，  
学内 OPAC 及び近郊の大学・県立・市立図書館の OPAC で所蔵を確認してください。

松山大学図書館  
 聖カタリナ大学図書館  
 松山東雲女子大学図書館・松山東雲短期大学図書館  
 愛媛県立医療技術大学図書館・愛媛県立医療技術短期大学図書館  
 新居浜工業高等専門学校図書館  
 愛媛県立図書館  
 松山市立中央図書館  
 などの OPAC を検索するときは，附属図書館ホームページの「リンク集」の「愛媛県内図書館紹介・リンク集」を御利用ください。

☆Webcat Plus  
 について

平成 17 年 4 月 1 日から Webcat Plus に NACSIS Webcat のデータが追加されます。変更後の Webcat Plus については次号で紹介します。

■ 県内・国内の図書館の所蔵を調べる

● 愛媛県立図書館

こちらからは愛媛県立図書館の蔵書検索が行えます。  
 愛媛県内図書館紹介・リンク集

## 医学部分館長交替

2期4年間図書館のためにご尽力いただきました分館長貴田嘉一（きだ かいち）教授（小児科学）の任期満了に伴いまして、平成17年3月1日付けで新井達潤（あらいたつる）教授（麻酔・蘇生学）が新しく分館長に就任されました。任期は平成19年2月28日までです。よろしくお願いいたします。

## 「図書自動貸出返却装置の設置」について

この度、附属図書館本館1階カウンター横に「図書自動貸出返却装置」が設置されました。

これにより、利用者本人が、閲覧室にある図書の貸出・返却を行うことが出来るようになりました。是非御利用ください。

なお、延滞図書のある方、学外の方、書庫にある資料、長期貸出等利用出来ない場合もあります。その際は、カウンターまでお願いします。

御不明な点は、図書館サービス課本館情報サービスチーム（内線：8844、8845）までお問い合わせください。

### 操 作 手 順

①画面の指示に従って「貸出」「返却」を選ぶ。「貸出」の場合には学生証（図書館利用証）を右下のカードリーダーに入れる。その際、黒い磁気の線がある方を上にして入れる。



②借りる本をバーコードが貼ってある方を上にして、所定の位置にセットし機械が読み込むまで待つ。複数の本を借りる場合には次の本をセットする。



③「終了」を押すと手続きが終わった本と返却日が記されたレシートが出力される。**学生証も出てくるので忘れずに。**これで手続き完了です。



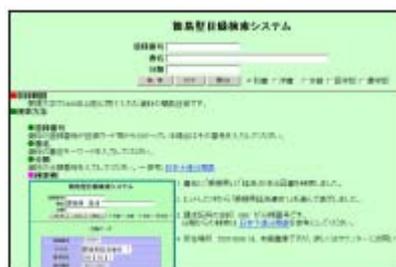
## 簡易型目録図書館検索システムについて

いままで、図書館目録検索システム（OPAC）では、図書については、1988年4月以降に全学で受入れた和書と洋書に関する書誌・所在情報のみの（一部遡及入力を含む）検索しかできませんでしたが、以前に受入れた図書についても、簡易型目録として検索が可能になりました。古い資料については、カードでしか探すことができず、ご不便をおかけしていましたが、書名などのキーワードで検索することができます。詳しいことについては、各サービスカウンターにお尋ねください。

【URL：<http://opac.lib.ehime-u.ac.jp/GNB/>】



【OPAC画面：簡易目録のアイコン】



【簡易型目録検索システム画面】

## 平成16年度愛媛大学附属図書館学術講演会

附属図書館では、平成17年1月21日（金）、国立大学法人一橋大学学術・図書部長塚田吉彦氏を講師に招いて平成16年度附属図書館学術講演会を開催しました。

演題は、「今日は昨日と違いますか 一楽しく仕事をするために」として、図書館職員の専門性・人材育成等を中心に、豊富

な経験をもとに講演されました。附属図書館は、大学の事務機構改革により事務局に一元化され、附属図書館の事務部門だけでなく、学術情報部の職員として、大学における学術情報・事務情報に係ることになり、従来にも増してその役割りを果たすための幅広い専門性が求められてきています。

愛媛地区大学図書館協会加盟館からも多数の参加があり、講演後は活発な意見交換が行われ、大変有意義な講演会となりました。

講演のレジメは、愛媛地区大学図書館協会ホームページの、愛媛大学附属図書館学術講演会開催記録に掲載しております。

URL：  
<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/EHIME/koenkaikiroku.html>



【附属図書館 視聴覚室にて】

## 附属図書館委員会

○平成16年度第3回附属図書館委員会

日時 平成17年3月18日(金)

場所 附属図書館視聴覚室

議事

【報告事項】

1. 平成16年度第1回附属図書館自己点検・評価委員会について
2. 平成16年度附属図書館事業報告について
3. 平成17年度国立大学法人愛媛大学年度計画(図書館関係)について
4. 分館近況報告

5. その他

【協議事項】

1. 平成17年度附属図書館事業計画(案)について
2. 大学評価基準(機関別認証評価)の対応について
3. 学術情報データベース SCOPUS の導入について
4. 図書館資料の除籍について
5. その他

## 図書館日誌(会議, 研修)

- |        |  |   |
|--------|--|---|
| 12月1日  | 平成16年度第3回農学部分館運営委員会                                    | 五味学術情報課長出席  |
| 12月2日  | 第40回日本医学図書館協会中国・四国地区部会総会(山口大) 星川 TL 出席                 | 1月27日 館報編集委員会(図書館だより第77号)                                   |
| 12月3日  | 第1回「情報基盤システム」仕様策定委員会                                   | 2月1日 平成16年度第4回農学部分館運営委員会                                    |
| 12月7日  | 第2回「情報基盤システム」仕様策定委員会                                   | 2月3日 平成16年度四国地区著作権セミナー(愛媛県民文化会館)                            |
| 12月9日  | 大学図書館等関連事業説明会 NII Library Week 2004(キャンパスプラザ京都) 三浦部員出席 | 2月8日 平成16年度第1回附属図書館自己点検・評価委員会                               |
| 12月9日  | 留学生センターと打合せ  | 2月17日 平成17年度 NACSIS - CAT / ILL 講習会実施検討会議(国立情報学研究所) 松本専門役出席 |
| 12月17日 | 国立大学図書館協会経営問題小委員会(組織・連携等)(広島大) 五味学術情報課長出席              | 2月22日 情報基盤システム仕様策定委員会                                       |
| 12月20日 | 情報基盤システム導入説明会  | 2月22日 平成16年度第3回医学部分館図書・情報委員会                                |
| 1月21日  | 平成16年度附属図書館学術講演会(講師:塚田吉彦 一橋大学附属図書館学術・図書部長)             | 3月2日 国立大学図書館協会中国四国地区事業委員会(愛媛大)                              |
| 1月27日  | 国立大学図書館協会経営問題委員会・小委員会合同委員会(九州大)                        | 3月3日 「鈴鹿文庫」目録専門部会   |
|        |  | 3月9日 情報基盤システム仕様策定委員会  |
|        |  | 3月18日 平成16年度第3回附属図書館委員会                                     |